



Osaka Prefecture



7月30日、大阪府内で関西在住の市にゆかりのある10人の方と中西市長との意見交換を行いました。会では市長が「前日の東京では厳しい意見というよりも鹿屋が何をしているかわからない、目に見えないという意見をいただきました。そのような中でどのようなアクションを起こせば大阪や東京から足を運んでもらえるか、また企業立地してもらえかなど、きたんのない意見を頂ければ」と挨拶しました。出席者からの主な意見は次のとおりです。

外から見た鹿屋、ふるさとへの思いについて

【長田】 鹿屋の良いところは、良い意味で変わらなところだが、欠点でもある。



宝塚医療大学 助教 長田 則子さん

【柿窪】 鹿屋に初めて行ったとき、遠いと感じた。アクセスは



大阪府立大学大学院 教授 上南木 昭春さん

決してよくない。鹿屋でイメージできるものがない。観光地もない。ただし広い台地は大きな財産だと思っ

【上南木】 鹿屋には、森殿、田の神様など、おもしろい歴史自然がある。こういうものに光を当ててもおもしろいと思う。また、吾平山上陵や高隈山をもつ



㈱エヌディエス 取締役 中務 正幸さん

屋の人はまじめだが、「私がやります」という強い気持ちが見えない。

【中務】 鹿屋といえば体育大学。体育大学には良い施設があるので、全国のトレーナーやスポーツ選手がそれを目当てに来るような仕掛けをするべき。アスリート食堂もよく耳にするが、そこでアスリート食を学びたいという所までは至っていない。



なぎさ監査法人 代表社員 安山 寿祥さん

【安山】 鹿屋は大隅の中では存在感があるが、全国から見たら特色が見えにくいのかなと感じる。人に話すときに、自衛隊と体育大学以外に伝えるものがない。

【中札】 大隅は一つである。市政10周年を記念して、大隅サミットを開催したい。また、食料基地であることを生かすべき。



㈱エヌディエス 取締役 中務 正幸さん

【中務】 鹿屋の話をして、9割強は鹿屋を知らない。鹿屋単独では難しいので、食、ロケット基地、史料館など、大隅全体でもっとPRや物産の販売などに取り組んで欲しい。



かのや篠原 店主 篠原 徳行さん

【篠原】 大隅の中では垂水の情報が早く伝わってくる。情報量が大事。かのやファン倶楽部をもっとマメに更新したり、もっとフランクな感じにしてもいいと思う。

鹿屋の売り、ブランドディング できるものは何か？

【安山】 眺めのいいところもあるの、マラソン大会があってもいいのではないか。  
【畑中】 福岡からのバスア

と生かすべきではないか。  
【蔵ヶ崎】 交通が不便。もう少し高齢者に配慮した支援があってもいいのではないか。



テイサービスセンター おおぎの郷 トレーナー 蔵ヶ崎 みさとさん

【畑中】 大阪の寿司チェーン店が鹿屋の米と紅はるかを使用したという話を地元で聞いたことが、対応できないということ話で話された。大阪に比べて鹿



㈱コモンプロダクツ 代表取締役社長 柿窪 浩二さん

でサクラクレパスの工場見学があった。そういうのも良いと思う。

【柿窪】 色々ありすぎて的が絞れていない感じがする。  
【上南木】 シラス台地が特性ではないか。サツマイモや落花生も「シラス台地の恵み」である。また、風光明媚なところに宿泊施設がない。高須、浜田をビーチリゾートに開発してもいいのではないか。自然を生かしたスポーツイベントもいいと思う。



川西市選挙管理委員会 委員長 中札 思無哉さん (関西鹿屋会 会長)

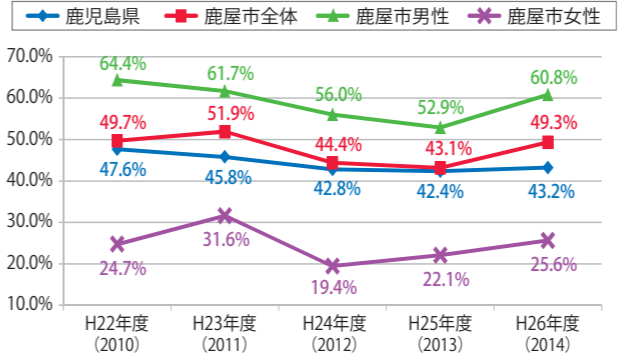
【中札】 薩摩半島側に大隅半島の案内板を立てたらどうか。  
【篠原】 大隅の良いものを一括して仕入れて売ってけるところがあったらいい(和歌山の「とれとれ市場」みたいなもの)。  
【中務】 健康と鹿屋体育大学を絡めて何かできないか。

若い世代の流出

統計から見る鹿屋市の課題②

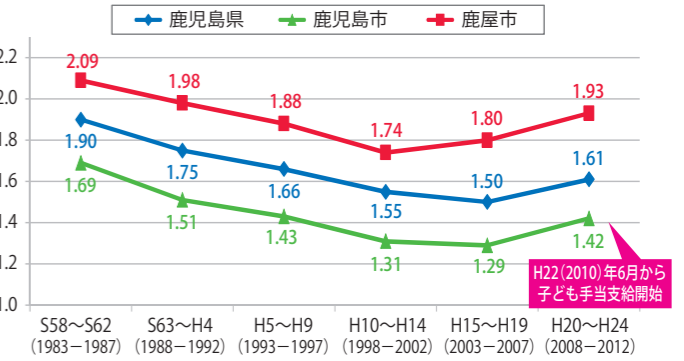
高卒就職者の県外就職割合をみると、市全体では5割程度で推移し、県と比較すると高い水準となっており、本市の人口減少の要因の一つになっていると考えられます。将来的な人口減少を抑制するために、若い世代の市内定着が大きな課題となっています。また本市の合計特殊出生率(平成20年～24年)は、1.93で県平均よりも高い数値となっていますが、人口を維持するために必要とされる2.07は下回っており、少子化傾向が続いています。

【高卒就職者の県外就職割合】



資料：文部科学省「平成22～26年度学校基本調査」

【合計特殊出生率の推移】



資料：厚生労働省「人口動態統計」 ※合計特殊出生率：15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したものと。

人や企業を呼び込むためのアイデアについて

【長田】 仕事があれば、今すぐにも鹿屋に帰りたい。また、エアメロは宣伝をうまくやったら、もっと人が来ると思う。

【中務】 鹿屋体育大学には、選手をサポートするトレーナーを育成する場がない。  
【安山】 移住、観光など、目的によって必要な情報は異なるので、情報発信はきめ細かくやるべき。

【中札】 企業等から進出の相談があった時は丁寧に対応すべき。  
【柿窪】 大隅全体で促していくか、ないといけないのではないか。

【中】 広報かのやを県外出身者に送って欲しい。  
【畑中】 人材育成、物流費、設備投資への支援をお願いしたい。



㈱サクラクレパス 取締役 畑中 一孝さん

地方創生に向けた今後の取組

中野茂市長

今回の意見交換会において、地元では見えないこと、気づかないこと、当たり前すぎて見落としがちなことや、本市を活性化させるためのアイデアなど、様々なご意見をいただきました。これらの意見を今後の人口減少対策や地域活性化策などに活かしながら、ご参加いただいた皆様をはじめ、ふるさと鹿屋を離れて暮らしている方々など、全国に向けて鹿屋の魅力をしっかり伝えられるように情報発信を行っていききたいと思います。